

まちづくり懇談会内容【公開用】

日 時：令和 2 年 11 月 11 日（水）14：00～15：39

場 所：富士中央公民館

出席者：14 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. これからのまちづくり（資料 1 参照）

- ・栗山赤十字病院の改築について

4. 懇談

5. その他（情報提供）

（1）光回線の全面開通について

（2）栗山高等学校と介護福祉学校の状況について

（3）新型コロナウイルス感染症対策について（資料 2 参照）

- ・町民の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料 2－1 参照）

- ・事業者の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料 2－2 参照）

- ・新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（資料 2－3 参照）

（4）空き家の情報提供について

6. 閉会

《懇談内容》

【栗山赤十字病院の改築について】

町長：診療科などは、他の会場でもいろいろな意見が出ている。たとえば、整形外科など午前中だけの診療なので、午後からも診療してほしいといった意見や、眼科や泌尿器科、皮膚科は週 1 回診療の出張医になる。週 1 回だと診療するタイミングを逃すと 1 週間空いてしまうので、週 2 回以上にしてほしいなどの意見が出ている。

町長：病院の総合受付から、内科などの診察までの距離が長いので、新しい病院は導線なども考えた構造にしてほしいといった意見もある。また、改築後の病院経営なども考えて、近隣の病院と診療科を連携して、12 の診療科目を減らしてはどうかという意見もあった。

町長：病院の何か不都合なところなど些細なことでも構わないので意見をいただきたい。

町民：検討委員会の話で、建て替えがベストということで決まったということだが、建てるお金の負

担がなくても、栗山赤十字病院に町からお金を出していることは分かっているのです、新しく病院を建てるのであれば、療養型になるのか治療型にするのか、町の方からきちんと発信していくことが大事。医療も大事だが、若い人に負担のないようにしてほしい。近隣にも総合病院があるので、行政の方から方針を出すことも必要ではないかと思う。将来的に人口減少していくのは明らかだと思う。病院が開院する頃には、人口 1 万人を切っているのではないかな。

町長：病院経営については、これからの時代を担っていく若い方々のためにも、今きちんと適切な判断をすることが我々の役目と認識している。一番大事なのは、一般病床にするのか療養病床にするのかを専門家を交えて検討していくこと。たとえば、南幌は地域包括ケア病棟にすべて移行して、他の診療は、近隣の大きな病院と連携をとることで考えている。

町長：栗山赤十字病院は、病床数 100 床程度に減少させるが、町民のほかに、近隣の町からの集客も考えていかなければならないといったことは他の会場でも意見として出ている。

町民：今、自分は検診ぐらいにしか病院に行かない。建物の老朽化と言われれば仕方がないが、他の病院をみていると、患者が医師を選んで病院へ行っているところがある。診療科を増やすことも大事だが、評判の良い医師の確保のほうが大事だと思う。

町長：いい医者の確保が大事だという意見もある。今の栗山赤十字病院は常勤 6 人と 1 人が非常勤残り 14 人が出張医になっている。常勤医の確保も重要だが、栗山赤十字病院は北海道大学との関係があるので、医師の確保は近隣の病院と比べても比較的確保しやすい状況にある。

町長：今の栗山赤十字病院は敷地面積 15000 m²に延べ床面積 8700 m²の病院が建っている。今の病院の南側に 7200 m²の建物が建てられる土地がある。建設後に移動して既存の病院を解体することになる。病院は建設中も休まないで行えることになる。

町長：建設場所について、移転する場合は約 6 億円の解体費が借入金の対象にならないが、いろいろな可能性を考えている。候補地として意見が出ているのは、栗山駅周辺や、角田地区、富士の栗山町農産物検査場付近はどうかといった意見も出ている。一昨日、カルチャープラザでの懇談会では、旧栗山小学校グラウンドだと、買い物や施設がすべて徒歩圏内になるので、いいのではないかとといった意見もあった。移転建て替えについて、国へ解体費用の借入金に対する要望をしているが、なかなか厳しいという話を聞いている。

町民：旧栗山小学校のグラウンドはいい場所だと思う。あの場所の六価クロムはどれくらい掘れば出てくるのか。

町長：旧栗山小学校のグラウンドのことで、六価クロムは、グラウンド上で運動するのは問題ないが、地面を 15 センチから 20 センチ程度掘ると出てくる。

町民：病院の入口はどこも南口にあるのが現状。北口の入口は北海道であれば、凍結しやすく高齢者や救急隊員も慎重に歩いているのをよく見かける。もし建て替えるのであれば、南向きにすることを検討してはどうか。

町長：南向きに入り口を作るのは、反対側に回っていくことになるので、設計上の問題で難しいのではないかと思う。建物の設計はこれからになるが、救急入口は、別な位置に作る計画でいる。いろいろな可能性を考えていきたい。

町長：薬局のことにについて、道路を横断するので危ないといった意見もある。ただ、薬局の移転は、法律上の問題がある。担当から説明する。

日赤改築室長：平成 6 年に、医薬分業の制度ができ、薬の処方（医者）と調剤（薬剤師）を分けた。院内から薬局がなくなった。院内の薬局は多くの薬剤をストックできない。人件費の問題。

院内報酬など、経営が難しく、どうしても建物の外になった。また、道路をまたがないと薬局を建ててはならないということもあり、同じ敷地に薬局は建てられないことになっている。規制緩和してきているが、歩道に出ないと薬局が建てられない。その後、平成 28 年に敷地内へ薬局を建設してもよくなったが、経営は別にするようにということになった。

町長：今 3 件の薬局があるので、3 件とも敷地に入れるわけにはいかない。薬局と栗山赤十字病院とも話し合っていきたい。

町長：他の会場でよく出てくる話として、14 億 1000 万円を 30 年間で支払えるのかといった意見もある。栗山赤十字病院は収益に増減はあるが、黒字になることもある。ただ、累積赤字が 30 億円あるので、黒字の時に回収している。町から、約 1 億円を栗山赤十字病院へ補助している。内訳は、救急告示病院と不採算医療ということで出している。国からは 8000 万円の補助があるので、実質は 2000 万円の町の補助になる。言い換えると、町が 1 億円出さないと 8000 万円が国から補助されないということになる。

町長：現在 136 の病床があるが、100 床に減らすことで計画しているが、国は病院の統合改善や縮小をする医療機関に対して、補助をする取り組みをしている。現在、国からの交付税 8 千万から 100 床に減らすと交付税が倍に増えることになる。国の制度などをうまく活用してやっていきたいと考えている。

町民：最大の解決策は患者を増やすこと。患者を増やすためにどうするかを考えることが大事。薬局のことも、そういった意見が出ているなら対応できるようにするべき。高齢者が病院に通いやすくすることを考えていくことが大事だと思う。子どもはそんなに病気にはならない。

町長：近隣との連携で拠点病院を置くことを考えたが、他の町はそれぞれで病院計画をしているので、拠点病院を進めることは難しいと判断した。地域包括ケアについては、高齢者施設などと連携しながら考えていきたい。

町民：産婦人科がこの近辺にないので、岩見沢や札幌まで行っている。生まれた場所で出産できる体制を作ってほしい。医師の確保や施設の整備で難しいと思うが検討してほしい。

町長：たしかに、産婦人科は岩見沢にしかない。本来は産婦人科があればいいと思うが、検討してみる。

《質疑応答》

【その他（質疑応答）】

町民：今コロナで 10 万円の給付金が年齢制限なく支給され、企業や観光、GoTo キャンペーンなどにもお金が使われたが、国に備蓄があるということなのか。どういう仕組みになっているのか。

町長：国がコロナ対策で使ったお金はほとんどが国債発行。将来に渡って返済しないとならないお金になる。来年以降、地方に交付される交付金が減らされ、コロナ税金のようなものが出てこないかといった心配があるが、国は、コロナ危機を乗り切ることに主眼を置いて考えている。国から自治体への支援もある。町では、通常であれば 3 億円の支援だが、光回線整備や子どもたち一人 1 台パソコン配備など、全体では 6 億円近いお金が入ってきている。そのほかに国から他の補助金を含めて 9 億円のコロナ対策をしている。国からの交付金や過疎債などの有利な借入れなどで対応して、実質的な町の持ち出しは 5000 万円程度に抑えている。コロナの支援としては、十分とはいえ

ないが、支援対策をバランスよく行っている。

町民：通常の年でも赤字国債で予算編成しているのに、これだけのお金は一時しのぎにしかないと思う。倒産してしまっただけで、財源だけが減って何の解決もできていない。これだけ借金をしているということを国でも公表していくべき。打ち出の小づちのようにお金を使っているように思える。この先、将来年金なども減らされるのではないかという心配もある。

町長：国会議員と話すこともあるが、コロナを乗り切ることを第一に考えるが、コロナが収まった時に、日本がひどい状態になっているということは、避けたいという考えだと、どの国会議員もおっしゃっている。この先の心配は確かにある。

町民：コロナの感染者と同じように、国の借金がいくら使っているということも公表していくぐらいにしないと、企業に対する対応策といえは仕方がない気もするが、お金の使い方や、考え方はどうなのかと思う。

町民：Go to キャンペーンなどで、外から人が集まるとどうしても感染者が出てくる。北海道なども、札幌などは感染者が増えている。これで、またお金を使ってどうするのかと思う。

町長：11月9日から栗山赤十字病院でコロナの検査ができるようになる。担当から説明する。

日赤改築室長：栗山赤十字病院に発熱外来が行われている。病院の横にプレハブが建てられている。発熱や味覚症状などの症状があるなど、コロナが疑われるときは、栗山赤十字病院へ電話をしていただいて予約をし、受診していただくことになる。検査が必要であれば、抗原検査を受けることができる。PCR検査は検体を札幌に送って検査する。抗原検査は栗山赤十字病院で検査ができる。発熱などの症状が出た場合、まずは電話で連絡いただきたい。検査の結果、陽性となった場合は、栗山赤十字病院から連絡があり、岩見沢市立病院への入院となる。もしベッドが満床であれば、札幌市内のホテルでの療養となることもある。個人的に検査を受ける場合は、65歳以上であれば、国や町から検査費用の補助が受けられる。電話での予約になる。

町民：どなたか検査を受けた方はいるのか。

日赤改築室長：受けたかどうかはわからない。

町長：他の会場でも、受診には消極的なところがある。発熱ある方は、検査を受けられると思う。栗山赤十字病院はコロナの治療はできない。近場では岩見沢市立病院になる。今回、栗山赤十字病院から申し出があり検査機器を購入して設置した。

町民：近隣にこのような検査は受けられるところはあるのか。

日赤改築室長：夕張は検査できると聞いている。

町民：検査などにお金を使うべきだと思う。まずはコロナを抑えること。10万円をもらって店を閉めたとしても対応策にはならない。

15：39 終了